

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	政策企画監 太田史朗	電話番号	0852-22-6061
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	ふるさと島根寄附金		
目的	(1) 対象	国民	
	(2) 意図	ふるさと島根寄附のPRを最少の経費で効果的に行い、寄附金を活用した県民福祉の向上に資する事業を実施するとともに、県の財政健全化に寄与する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと島根寄附条例に基づき収受した寄附金をふるさと島根基金へ積み立て、産業の振興、子どもの読書活動の促進、竹島の領土権の確立など、県の行う事業の推進のために活用する。 ふるさと島根寄附制度の活性化を図るために、パンフレット等によるPR、県産品の贈呈、クレジットカード等による寄附金収納事務を行う。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	ふるさと島根寄附金への寄附金額	目標値	48,000.0	48,000.0	48,000.0	48,000.0	千円
			取組目標値					
	式・定義	ふるさと島根寄附金への寄附金額	実績値	48,000.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
			取組目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	64,616	66,336
うち一般財源 (千円)	16,195	17,366

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

<ul style="list-style-type: none"> 寄附件数、寄附金額、経費、支出/収入 H25年度 303件、10,322千円、1,712千円、16.58% H26年度 1,507件、27,586千円、10,640千円、38.57% H27年度 3,038件、48,409千円、17,932千円、37.04% 「お礼」については県産品PRの観点や寄附推進のために充実を求める声がある一方、総務省から「お礼」について制度の趣旨に沿った節度ある対応を求められている。 寄附金充当事業のメニューへの新たな施策の追加を要望する声がある。
--

6. 成果があったこと(改善されたこと)

<ul style="list-style-type: none"> 寄附者の関心が高い「お礼」について、新たに10万円以上寄附者に対しSコースを設け、経費を増やさずに、魅力的な県産品の品揃えにより充実させる等工夫をした。 H26年度：29種類 H27年度：76種類 H28年度：119種類 <ul style="list-style-type: none"> 制度の趣旨に沿った節度ある対応を求める総務省通知を受け、「ふるさと島根だんだチケット」について転売防止策を講じた。(チケットに「転売禁止」、「連番」と明記。) 「ふるさと島根寄附金管理システム」について、マイナンバー制度開始(平成28年1月～)に対応するためのシステム改修を行った。
--

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 寄附金充当事業のメニューへの新たな施策の追加の要望があるが、現時点では対応できていない。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 基金充当メニューへの追加要望のある事業が、現行のふるさと島根寄附条例では寄附金充当事業として明示されていない。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと島根寄附条例(若しくは規則)を改正する必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

<ul style="list-style-type: none"> 追加事業について、平成29年度当初予算編成までに、事務事業の見直し等を通じて関係部局と調整の上、条例改正などにより寄附金充当事業として追加する。
--

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)

--